

平成 28 年 5 月 11 日

福島大学経済経営学類 小山良太ゼミナール
おかわり農園プロジェクト

田植祭 ～^{さ な ぶ り}早苗饗～ のお知らせ

今年で 3 年目になる経済経営学類の小山良太ゼミナールの“おかわり農園プロジェクト”による田植えを 5 月 17 日（火）に実施する予定です。お世話になっている地域の農家の方に協力してもらい、当日は昔ながらの手植えと現代的な田植機による田植えの両方に挑戦する予定です。

昨年もたくさんの方に来ていただき、取材していただきました。今回もぜひ
よろしく願います！

なお、田植えの時間や場所などにつきましては、別紙 1 のチラシを、今年度のプロジェクト全体につきましては、別紙 2 の企画書をそれぞれご覧ください。

【連絡先】

代 表：福島大学経済経営学類教授

うつくしまふくしま未来支援センター 農・環境復興支援部門長（兼務）

小 山 良 太

学生代表：経済経営学類 3 年（小山良太ゼミナールゼミ長）

松 元 大 輝

連 絡 先：080-5749-9906（専用ダイヤル）

024-548-2880（ふくしま未来食・農教育プログラム 当プロジェクト担当：棚橋）

メー ル：r695@ipc.fukushima-u.ac.jp

別紙1

福島大学小山良太ゼミナール

田植祭

さ な ぶ り

～早苗饗～

日時：5月17日（火）13:30～

場所：松川町圃場（福島市松川町伊藤前の付近）

＜福島大学より車で10分、福島松川スマートICより車で3分＞

今年も福島市松川町の農業生産法人「松川アグリ農産」の協力の下、米づくりに携わります。福島県産米のブランド力を向上させ、消費者から選ばれる米をつくるために、自ら農業を体験することで様々なノウハウを身につけます。



おかわり!!

早苗饗とは...

田植終了後に田の神を送る行事のこと。17日は、田植えの後にみんなで食事をします。



代 表：福島大学経済経営学類教授
うつくしまふくしま未来支援センター、
農・環境復興支援部門部門長（兼務）
学生代表：経済経営学類3年（小山良太ゼミナールゼミ長）
連 絡 先：080-5749-9906（専用ダイヤル）
024-548-2880（ふくしま未来食・農教育プログラム 当プロジェクト担当：棚橋）
メー ル：r695@ipc.fukushima-u.ac.jp

小山良太
松元大輝

活動企画書

新体制おかわり農園～田植えから始める私達の挑戦～

<福島県の現状>

福島県は豊かな自然を有し、米のおいしさ・安全性において他県に劣っていない。特に安全性においては、カリウム散布による放射性物質の吸収抑制対策や全量全袋検査の実施により、全国一の検査体制を誇っている。

しかし、一方で風評被害による米価の低下、地産地消の停滞、出荷制限による一時的な生産量の減少など様々な課題を今もなお抱え続けている。またそれが生産意欲の低迷につながり、震災以前から問題となっていた農業従事者の減少にも拍車がかかっている状況にある。

<事業目的>

今年は「産地」に着目し、マーケティングにより福島県産米のブランド力向上を目的に活動していく。

これまで小山良太ゼミナールは福島県の食料自給率の向上による地域経済の活性化をめざし、“地消地産”を目標に株式会社 marche' F を設立、まちなかマルシェを開催してきた。震災後は食に関する正確な情報提供と安全性の証明も合わせ、復興マルシェという名称で活動を行ってきた。そして 2014 年、おかわり農園が始動。生産者側の視点に自分たちが立つことにより農家の現状、福島県の米の安全性をより知ることができた。昨年は初の試みである「ふくしま・かわまた米コンテスト」を実施し、農家の生産意欲の向上と、消費者へのおいしさ・安全性を伝える機会をつくった。また、各種イベントにも参加し、米の販売、福島県産米の PR を行った。

このような活動を通して私たちが受けた印象は、学生が作ったお米というブランドに興味を持って購入してくれたということだ。私達のお米だけでは、風評被害の影響を含めた震災後の福島県産米全体の価格低下を覆すことは困難である。そのため、「産地」に着目した活動を行いたい。

<私達の思い>

おいしさ・安全性が保障されているのに、私達はスーパーなどの身近な場所で見かけることが少ないのはとても残念な気持ちです。実際、私も福島市内の実家で出てくるのは北海道産の米です。これまで家族には安全性を訴えてきましたが、それだけでなく美味しさも発信していくべき魅力であると感じています。ただ純粋に私達はこの福島県産

米のおいしさをさらに多くの人に知ってほしいのです。

そのためには、私たちが米をもっと知らなければなりません。製品を知るということはマーケティングの第一歩です。農家の技術、工夫に触れ、農業従事者の苦労を体験することで、私たちのお米が完成した際、自信をもっておいしいといえるはずです。

＜事業内容＞

福島県産米、なかでも県北地域の米のブランド力向上を目的とするマーケティング活動として、主に3つの内容を計画している。

1つは昨年も実施した米コンテスト開催への参画である。昨年11月に「ふくしま・かわまた米コンテスト」を福島市、川俣町、地元JAと私達で実行委員会を立ち上げ開催したが、今年も同様の体制での実施を計画している。この取り組みにより、消費者へ「おいしさ」をPRする効果が期待できる。

2つ目は、消費者意向の調査である。消費者はどのようにして米を手に入れているのか、選ぶ基準は何か、などの調査結果を米コンテスト会場などでのPRの内容や伝え方に反映させていきたい。さらに調査結果を元に県北地域のお米がさらに消費者から選ばれる存在へなるために必要な方法を検討する。

3つ目として、農業体験である。上記2つの活動のベースになる体験・知識として、生産から販売までの過程をできるだけ自ら体験したいと考えている。そのなかで安全性を確保する放射性物質の吸収抑制対策や米の全量全袋検査などの仕組みも学び、伝えられるようにしたい。

＜今後のスケジュール＞

5月17日 田植え、早苗饗

5月～10月 田んぼ管理作業
コンテストに向けた準備
消費者調査

10月末 米の収穫

11月 米コンテスト

不定期に各種イベントに参加予定

＜松川町圃場マップ＞

福島大学より車で10分、福島松川スマートICより車で3分



＜参加学生 一覽＞

代表 松元大輝

副代表 高萩美希

構成員 佐藤駿介 常松佳奈 齊藤遼 望月頌子 稲船はるか 高橋妙

＜実施体制＞

実施主体 経済経営学類 小山良太ゼミナール

協力 福島大学ふくしま未来食・農教育プログラム

福島大学うつくしまふくしま未来支援センター食・農復興支援担当

外部連携団体 JA ふくしま未来、松川アグリ農産

福島市、川俣町、福島県農業総合センター

＜お問い合わせ＞

代表 福島大学経済経営学類教授

うつくしまふくしま未来支援センター農・環境復興支援部門 部門長(兼務)

小山良太

学生代表 経済経営学類3年（小山良太ゼミナールゼミ長） 松元大輝

連絡先 080-5749 - 9906 (専用ダイヤル)

<主な活動風景（2015 年度の様子）>
 おかわり農園



収穫を前にした私たち



田植えの様子①



田植えの様子②



収穫の様子

ふくしま・かわまた米コンテスト



コンテストを終えての集合写真



審査員をいただいたなすびさん